



NO. 113

新宿ニューオデオン座

TEL (34) 2088

25日~31日公開

テクニラマ 總天然色 娯楽巨編

# 失われたものの伝説

息づまる熱風のご真ん中に対決する世紀の三大スタア迫熱競演のアクションロマンス!

監督 ヘンリー・ハサウェイ

ジョン・ウエイン

ロツサノ・ブラッチ ソフィア・ローレン



全ムに騒然たる話題を提起した犯罪映画の最大傑作!



# 目撃者

アントナール・アルティ ロベール・オッセイン

## 昼 ダンスホール

300坪の大フロアー、美しくて綺麗な良いフロアーでは是非一度踊って下さい。きつと御満足せられる事と思います。御同伴の皆様をお待ちしております。御一人の方には美しいパートナーがお待ちしております。

平日 12時…… 5時  
↑ 1時迄サービスタイム ¥100  
日曜日・祭日・風・夜・ダンスホール営業

## 夜 キャバレー

商談に…接待に…会社の御帰りに…一寸おより下さい。美しい女性が貴方をお待ちしております。飲んで…踊って…ショーを見て……

サービスタイム 6時… 8時 ¥460  
ビール……… ¥150  
毎夜ショー上演… 8時・9時30分・11時

東京で一番美しい……

# ホール★オデオン

グランド・松竹劇場 5階  
TEL (35) 4241・9772・7145・6252  
(エレベーターを御利用下さい。)





Leo McCarey's AN AFFAIR TO REMEMBER

シネマスコープ  
縮天然色

監製  
作：ジェイ・ウォルド  
督：レオ・マツケリイ

キャスト  
ニッキイ・フエラント……ケイ・グラント  
テリイ・マツケイ……デボラ・カー  
ケネス……リチャード・デニング  
コイス……ネヴァ・パタス  
キャスト  
ア……キャスリン・ネスビット  
ハサウエイ……ロバート・Q・ルイス  
コーベット……チャールズ・ワッツ  
マクグラス神父……フォート・ブナウワ  
マクグラス神父……マート・ムーア  
マリオ……ルイス・マーシア

☆梗概  
マルセーユからニューヨークへ行く豪華船に、ニッキイ・フエラント（ケイ・グラント）という美人が乗っていた。その名は世界に鳴り響いて来たが、いよいよ自分も乗った。彼女は女性の憧れの的であると同時に大へんな女好きで、その名は世界に鳴り響いて来たが、いよいよ自分も乗った。彼女は女性の憧れの的であると同時に大へんな女好きで、その名は世界に鳴り響いて来たが、いよいよ自分も乗った。...

ニッキイの祖母の邸で過した時は、何かあったとはいえず、テリイにとってはいつも思い出せない思い出となった。ニッキイの祖母と別れを惜しんだテリイは再び彼と船に乗り、帰路についていたが、テリイの気持ちには不思議な変化が起つていた。ニッキイの祖母を通して彼の本来の人間性に接した彼女は次第に彼に心ひかれていくようになったのである。二人はゴシップや新聞種になることを恐れて、互いに関わりあうようにしたが、そのうちに船の写真屋が二人一語に接するところを撮った。二人は一語に食事をした。二人は別行動をする。二人は別行動をする。二人は別行動をする。...

ニッキイの祖母の邸で過した時は、何かあったとはいえず、テリイにとってはいつも思い出せない思い出となった。ニッキイの祖母と別れを惜しんだテリイは再び彼と船に乗り、帰路についていたが、テリイの気持ちには不思議な変化が起つていた。ニッキイの祖母を通して彼の本来の人間性に接した彼女は次第に彼に心ひかれていくようになったのである。二人はゴシップや新聞種になることを恐れて、互いに関わりあうようにしたが、そのうちに船の写真屋が二人一語に接するところを撮った。二人は一語に食事をした。二人は別行動をする。二人は別行動をする。二人は別行動をする。...

# 王子と踊子

天色  
縮天然色

The Prince and the Showgirl



物語 舞台はロンドン。時代は新国王、ジョージ五世の戴冠式が行われる一九一一年のことです。式に参列の

為、集った各国王室の中にはカルパチア国の摂政チャールズ大公殿下、その公子で少年国王のニコラス陛下、摂政の義母の皇太后も姿を現わっています。カルパチア国は、バルカンに位置する小国ではありませんが、イギリスにとっては、戦略的な緩衝国であったので、上、ロンドン滞在中の摂政の動静が極めて重要事であるととつたイギリス外務省は、極東部長ビクター・ノースブルックを大公の接待役に任命しました。入京第一夜に大公はメイジ・スプリングフィールドが主役のココナツ・ガールのオペレッタを御観覧になり、終つて一座の者に拝謁をおおせつかりました。

若しアメリカの踊子エルシイ・マリナが御挨拶申し上げた際、どうしたことでしよう。彼女の肩紐がブツリ切れて、大公には大変失礼を申し上げてしまったのです。ところが、これが殊の他、大公の御眼を奪われ、早速ノースブルックはベルグレイブ・スクエアにある大使館で、大公の晩餐にエルシイを招くことを命じられました。招待されたエルシイの方では、何故大公が自分を所望されたのか、場所がこともあろうにいかめしい大使館、加えて晩餐が大公と水入らずだというのは、不安を通りこしてすつかり恐ろしくなつてしまつたのです。大公の国事工作を耳にしたエルシイは、益々おどろきました。大公は彼女が傍にいることなどはそつかり、カルパチア大使と電話で話されており、話の内容は、カルパチアでウオルフスタインという男が、何かの索動をやつた罪で逮捕され、米政府が政治的自由を権にとつて抗議を申し込んでいるのですが、大公の口からは一バカなアメリカの奴等め一なんていう言葉が飛び出る始末です。

エルシイは自分の母国がこんな風に侮辱されたことを大いに立腹し、所かまわずに大公に喰つてかかりましたが、大公はいつこうに、そんなことには御眼をとどめません。そこへニコラス少年国王が入つてきて、ウオルフスタイン逮捕の理由を問ひ正し、虫の居所の悪い大公は「余は後一年半は事実上の統治者じや、余計な口ばしはいれるな」と怒鳴りちらし少年国王を、御部屋にカン詰にさせました。エルシイは大公の政治的偏狭さと、我が子に対する無精ぶりにひどく驚嘆しました。晩餐に飲んで強いウオルカの酔いがまわつたせいもあつて、エルシイは大胆にも大公に大見得を切りました。大公は「余が世界平和を念願しているのに、ウオルフスタインはドイツとの同盟を企んで戦争の誘発を計つたのじや」とエルシイに説明しました。今度こそ二人お年を召した皇太后が入つて来られ、エルシイをフランスの名女優サラ・ベルナルの親友と感懐いされて、すつかり彼女に印象づけられておしまひなつたのです。エルシイは大公がお使いになる紋切型の口説き文句には、すつかり失望してしまいました。エルシイはソフトな照明と音楽と香りの雰囲気の中で、愛の囁きがあると思つていたの

製作・監督……………ローレンス・オリヴィエ  
脚 本……………テレンス・ラティガン  
脚 色……………キヤスト  
エルシイ……………マリリン・モンロー  
大公……………ローレンス・オリヴィエ  
皇 后……………シビル・ソングダイク  
ノースブルック……………リチャード・ワタイス  
ニコラス国王……………ジェレミー・スペンサー